

# 虐待や家族関係など

## 傷ついたり子に隠れ家

### 名古屋のシエルターを開設 NPO法人

行き場のない子どもたちを守ろうと活動するNPO法人子どもセンター「パオ」(事務局・名古屋市東区)が準備を進めてきたシエルター(一時避難所)が、十五日開所した。七月七日には、パオの設立一年を記念したイベントも開かれ、絵本作家、五味太郎さんらに参加する。

(野村由美子)

子どもたちのための緊急避難の役割を担うのは児童相談所などがあるが、民間シエルターは、パオのほか東京、神奈川の二カ所しかない。パオは弁護士や医療・福祉関係者ら約五十人で昨年七月に設立。昨年十二月にNPO法人認証を受けた。

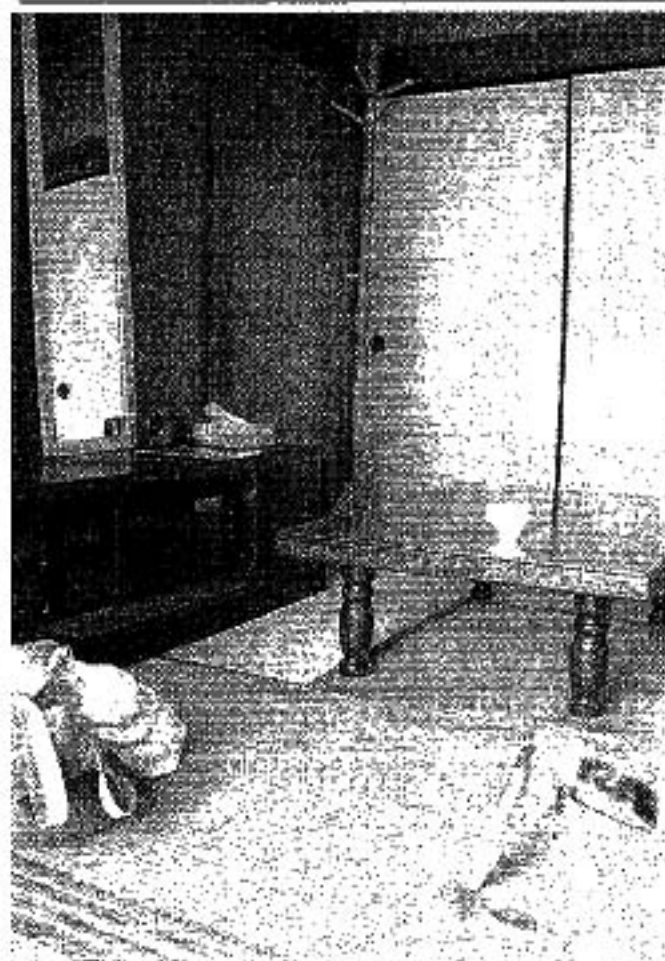
会費や寄付で運営しており、現在会員は約二百二十人。虐待や家族関係などから家庭が安全でなく行き場のない子どもたちを守るためのシエルター開設を目指して建物の確保、改修やスタッフ研修などの準備を進めてきた。

「丘のいえ」と名付けられたシエルターは県内にある二戸建て。個室三室を用意し、当面は女子専用で受け入れる。研修を受けたスタッフが一人、二十四時間体制で常駐。半月から数カ月間の滞在を予定し、その間に子どもたちが心の傷を癒やし、就職や自立につながるよう援助する。

子どもたちの安全のためシエルターの場所は公開していない。児童相談所なども連携を図っている。

パオの多田元・理事長は「念願の子どもたちの「隠れ家」ができてホッとしている。一人でも多くの子どもたちの笑顔が見られるよう活動したい」と意気込みを語る。パオの一周年記念イベントは午後二時十五分から、名古屋市中区栄四の中区役所ホールで開く。活動報告のほか絵本作家

家、五味太郎さんが講演。ブックドクターのあきひろさんが五味さんの絵本を朗読する。参加無料。定員は先着五百人。イベントに先駆けて午後一時からは、五味さんが提供した県弁護士会のキヤラクターの愛称発表がある。記念イベントの問い合わせはパオ事務局(電話052(931)4680)へ。



開設されたシエルター「丘のいえ」の内部(パオ提供)